

第67期 中間報告書

日本ユニシス株式会社

2010年4月1日 ▶▶▶ 2010年9月30日

高付加価値サービスの提供により、ICT※1市場での事業領域の拡大に取り組んでいます。

ごあいさつ

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

日本ユニシスグループは、お客様と価値を共有するという経営コンセプト(U&U®:Users&Unisys)のもと、中長期的な成長に向け「ICTサービス事業の推進」、「安定収益型ビジネスの強化」、「企業体質の強化」の3つの重点施策に取り組んでいます。



ICTサービス事業の推進

クラウドコンピューティング※2、すなわちお客様はシステムを所有せず、必要な分だけ利用して、使った分だけ料金を支払う形態のサービスの需要が拡大しています。当社は、国内では他社に先行して、3年前からこの分野に取り組んでおり、すでにさまざまなサービスを提供しています。

当上半期では、自治体向けサービスや電気自動車向け充電インフラシステム、電子図書館サービスなどをさらに拡充いたしました。今後も引き続き、事業の拡大を目指します。

安定収益型ビジネスの強化

アウトソーシングや保守サービスなど、中長期にわたっての安定収益源となる、継続的・安定的なビジネスの拡大、強化を図っています。

地方銀行向け勘定系システム『BankVision®』を核としたアウトソーシングにおいて、2010年5月に新たに2行を加え、すでに5行が順調に稼働しております。さらに3行の準備を進めており、高評価をいただいておりますので、今後もさらなる受注拡大に向け積極的なセールス展開を進めております。

企業体質の強化

2010年4月に営業とシステムエンジニアの組織を統合したことから、提案機会の増加や稼働率の向上につながってきております。さらに、生産性の向上や、シェアードサービスの推進など、さまざまなコスト構造改革に取り組んでいます。

企業のIT投資は、ゆるやかながらも着実に回復基調に入ってまいりました。当社は売上高の早期回復に向けて、営業体制の増強や新サービスの投入を積極的に行うとともに、中長期的な成長基盤の確立に向けた、安定収益型ビジネスや企業体質の強化に取り組んでまいります。

今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年12月

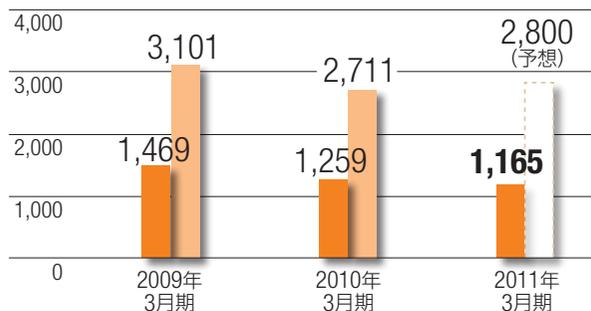
代表取締役社長 梶井勝人

※1 ICT (Information and Communication Technology) 情報通信技術の総称。人と人、人とモノの情報のやり取りが活発化してきたことから、従来のITに「コミュニケーション」を加えた「ICT」という言葉が普及しております。

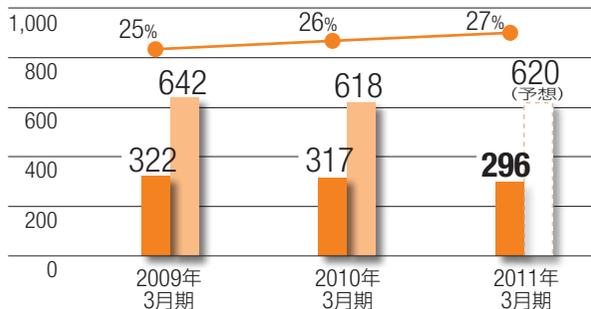
※2 クラウドコンピューティング インターネットを「雲(クラウド)」に見立て、雲の向こう側にあるサーバ・ストレージ・アプリケーションなどのICTリソースを必要な時に必要なだけ利用できるサービス形態を指します。

■ 第2四半期 ■ 通期 □ 通期予想

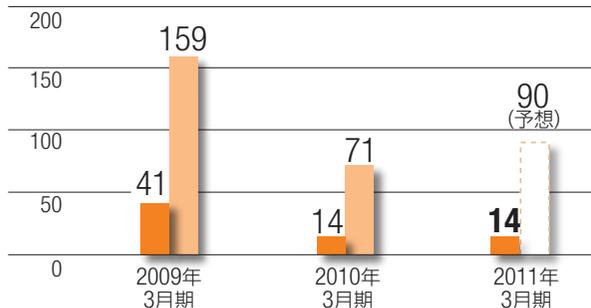
売上高(単位:億円)



売上総利益率(単位:%) / 販売費及び一般管理費(単位:億円)



営業利益(単位:億円)



業績のポイント

企業のIT投資意欲は改善しつつあるものの、依然として慎重な姿勢が続き、売上高は1,165億円(前年同期比7%減)となりました。

利益面については、コスト対策に取り組んだことにより、売上総利益率が改善(同0.4ポイント上昇)したほか、販売費及び一般管理費が売上総利益減少分とほぼ同額減少しました。この結果、営業利益は前年同期並みの14億円(同1%減)となりました。四半期純利益は、投資有価証券の評価損等により、4億円の損失となりました。

キャッシュ・フローについては、営業キャッシュ・フローが前年同期に比べ増加した結果、フリー・キャッシュ・フローは同39億円増の70億円の収入となりました。

業績の推移

	2010年3月期 (第2四半期)	2011年3月期 (第2四半期)
売上高	125,869	116,531
売上総利益	33,062	31,035
販売費及び一般管理費	31,660	29,648
営業利益	1,401	1,386
経常利益	1,266	1,162
四半期純利益(損失:△)	△ 237	△ 365

キャッシュ・フローの推移

	2010年3月期 (第2四半期)	2011年3月期 (第2四半期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,246	12,338
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,190	△ 5,379
フリー・キャッシュ・フロー	3,056	6,958
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,184	△ 7,763
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,958	24,656

財務のポイント

総資産については、前期末比174億円減少の2,007億円となりました。

負債については、借入金の返済等により同169億円減少の1,242億円となりました。

純資産については、765億円となり、自己資本比率は37.5%と、前期末比2.9ポイント改善しました。

(単位:百万円)

財務の推移	2010年3月期末	2011年3月期 (第2四半期末)
流動資産	120,792	100,869
固定資産	97,273	99,815
資産合計	218,066	200,684
流動負債	87,790	78,163
固定負債	53,348	46,061
負債合計	141,139	124,225
純資産	76,927	76,459
負債純資産合計	218,066	200,684

配当について

当社は、企業価値の増大が最も重要な株主還元であるとの認識のもと、「業績に応じた配当」を基本方針として、連結配当性向20%を目安に、安定的、継続的な利益配分に努めております。

当期の配当金は、現時点では、前期と同額の1株当たり年間10円の見通しであり、第2四半期末配当金は5円とさせていただきます。

業績予想数値について

本報告書に記載しております業績予想などの予測数値は、発行時点で入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本報告書における予想と異なる可能性があります。ご了承ください。

環境・地域貢献、快適な未来に続くソリューション

日本ユニシスグループのソリューションは、社会の幅広い分野で役立っています。

低炭素社会の実現に貢献

急拡大が見込まれる電気自動車の充電スタンドをITでサポート

電気自動車(EV)やプラグインハイブリッド車の急拡大が見込まれる中、充電インフラの整備が広がっています。4月28日には、中日本高速道路(株)により東名高速道路のサービスエリアに充電スタンド※が設置されました。日本ユニシスグループでは、充電インフラシステムサービス「smart oasis® (スマートオアシス)」をクラウド環境で提供し、低炭素社会の実現に貢献しています。また、関西電力グループの(株)エネゲートが開発したEV車向け給電システム「エコQ電」と「smart oasis®」の相互利用を可能とするシステムの構築を進めており、関西エリアでの充電インフラ整備がさらに加速されることが期待されています。



東名高速道路 上郷サービスエリア(下り線)

※中日本高速道路(株)の充電スタンドはEV専用であり、プラグインハイブリッド車には対応していません。

日本全国の地銀・信金をITで支援

地域貢献に積極的に取り組む地方銀行・信用金庫の経営基盤を支援

地域密着型金融を推進している地方銀行や信用金庫。例えば、(株)筑邦銀行では将来の地元経済の発展に向けた「ちくぎんバイオベンチャー研究開発大賞」を創設し、優れた研究を進めているベンチャー企業を支援しています。日本ユニシスグループは「BankVision® (バンクビジョン)」ほか、さまざまなシステムの提供を通じて、こうした地域貢献に積極的に取り組んでいる日本全国の地方銀行・信用金庫の経営基盤をITで支えています。

通販サイトの運営効率化を実現

日本最大級のファッション通販サイト「ZOZOTOWN」へインフラを提供

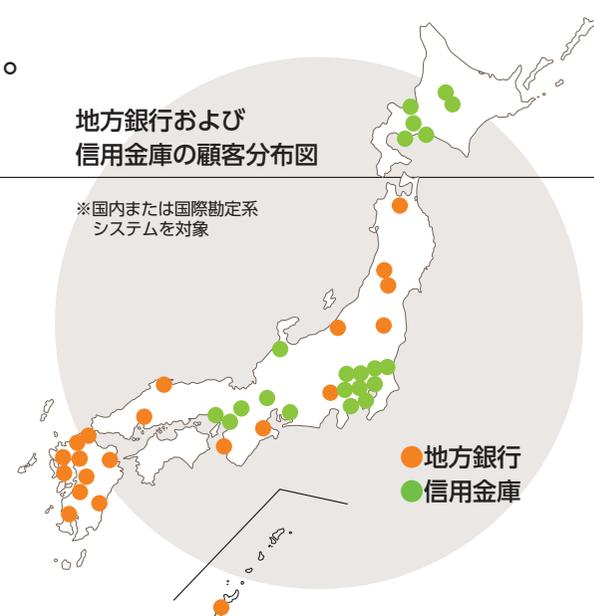
(株)スタートトゥデイが運営する有力ブランドが多数出店する日本最大級のアプリ専用インターネット通販サイト「ZOZOTOWN (ゾゾタウン)」。

日本ユニシスグループはお客様情報などのセキュリティを維持しながら、セール時に注文やアクセスが集中した場合でも、スムーズなお買い物が続けられるような環境をITで実現しています。

ショッピングサイト
「ZOZOTOWN (ゾゾタウン)」
URL : <http://zozo.jp/>



地方銀行および
信用金庫の顧客分布図



将来に向けた新技術への取り組み

みんなで楽しみながら参加して作り上げる、「空気が読めるコンピュータ」の実現へ

日本ユニシスグループは、(株)電通と米国マサチューセッツ工科大学メディア・ラボと協働で、人間と自然なコミュニケーションを図ることができる人工知能の研究開発を始めました。人間が対話する際の常識や感覚をデータベース化・活用し「空気が読めるコンピュータ」の実現を目指します。将来的には消費者の視点に立った、ネット通販などのEC(電子商取引)分野等での実用に活かしていきたいと考えています。

連想ゲームを通じて一般参加者から常識・感覚を収集し、データベース化します。ぜひゲームにご参加ください。
「ナージャとなぞなぞ」
URL : <http://nadya.jp/>



株式の状況 (2010年9月30日現在)

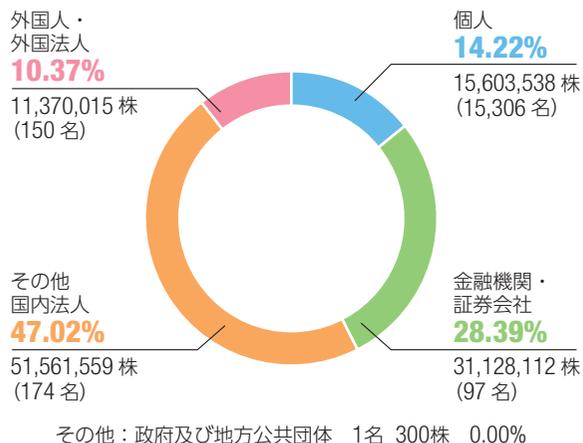
発行済株式総数..... 109,663,524株
 株主数..... 15,728名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
三井物産株式会社	30,524	27.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,951	7.25
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,394	4.91
農林中央金庫	4,653	4.24
日本ユニシス従業員持株会	2,940	2.68
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,060	1.87
株式会社BCN	1,839	1.67
全日本空輸株式会社	1,794	1.63
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,314	1.19
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(退職給付信託口・三菱電機株式会社口)	1,271	1.15

(注)上記の他、当社は自己株式13,685千株(持株比率12.48%)を保有しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人および特別口座管理機関事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324 (フリーダイヤル) 受付時間 9:00~17:00 (土日祝日を除く)
特別口座に関する事務取扱所	みずほ信託銀行 全国各支店 みずほインベスターズ証券 全国本支店
※住所変更、単元未満株式の買取等については、お取引の証券会社等でお手続きください。	
単元株式数	100株
電子公告	http://www.unisys.co.jp/com/notification
公告方法	ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード8056)

電子通知のご案内

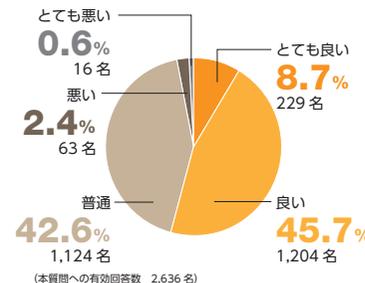
当社は株主様のご承諾をいただいた場合は、株主総会の招集ご通知を電子化(インターネットによる電子通知)いたします。現在郵送にてお受け取りいただいている株主様で、インターネットにより株主総会招集ご通知等をお受け取りになるご意向をお持ちの株主様は、以下のURLへアクセスし、必要な手続きをお取りくださいますようお願い申し上げます。

<http://daikomail.mizuho-tb.co.jp/>

株主様アンケート集計結果

第66期報告書のアンケートにおきまして、**2,741名**の株主様から回答をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。みなさまの貴重なご意見は、さらなるIR活動の充実のために活かしてまいります。

● 報告書の印象



みなさまからの
ご要望と改善点
貸借対照表や損益計算書、
キャッシュ・フロー計算書
等の財務諸表を掲載して欲しい。

↓

簡易な財務諸表を
掲載しました。

2010年10月10日(日)、
「バドミントン日本リーグ」が開幕しました。

昨年、男子チームが優勝し、女子チームも2部優勝・1部昇格を果たした日本ユニシス実業団バドミントン部。今年は、男女アベック優勝を目指して、男子チーム・女子チームともに白星スタートを切りました。



(最終戦は、12月26日(日)、東京都墨田区・墨田区総合体育館にて開催予定です。)

日本ユニシス株式会社

本社 〒135-8560 東京都江東区豊洲1-1-1
 電話 03-5546-4111 (大代表)

